

○ 本校の概要

・教育目標：①心身ともに健康な生徒 ②自ら学び、解決する生徒 ③自他を大切にし、鍛え合い、高め合える生徒
・特色ある教育活動：①キャリア教育の推進 ②学力の向上 ③生徒の自主活動の推進 ④食育の推進 ⑤特別支援教育の充実
・指導の重点：①「確かな学力」の定着と「分かる授業」②生徒の主体的、対話的で深い学びの実践 ③意図的・計画的な話し合いの実践、論理的な発表の育成 ④読書活動と言語活動の充実

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン1に関する質問項目1～4における肯定的な評価の割合は、保護者95.1%(-1.5)、生徒97.7%(+0.2)と高く、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合は93.3%(+1.3)で、高い水準にある。特に、質問項目3「ICT機器を活用した授業を実施した」に対する教員の回答は100%であった。背景には、生徒が学習に興味・関心をもてるように、教師がデジタル教科書やプレゼンテーションソフトを用いて教材を提示したり、デジタルツールを用いて生徒間で積極的に意見交換したりして、「主体的・対話的で深い学び」の実践を具現化したことによるものと考ええる。おおた教育ビジョンにおける成果指標、令和4年度実施の「大田区学習効果測定」における「中学校第2学年理科の期待正答率を超えた生徒の割合(達成率)」は81.1%であり、大田区(64.1%)及び全国(71.3%)を上回っている。また、全学年全教科においても区の達成率を上回っている。人権教育の推進については、「人権教育全体計画」に基づき、各教科、特別活動、特別の教科道徳、総合的な学習の時間を通じ、組織的・計画的に実践することができている。体力向上については、感染症予防に留意しながら体育の授業及び、部活動等を通じて実践し、東京都の体力調査の平均を維持、または、やや上回る結果を示している。	A7 B0 C0 D0	・学校評価は適切である。保護者、生徒ともに満足していると思う。 ・先生方の努力により、ICT活用の効果が出ている。 ・ICT機器を使用している授業は、生徒たちにとってはとても興味が湧くものだと思う。この先ますます必要性が出ると思う。先生方の研究にも期待する。 ・先生方の努力の成果が、生徒・保護者のよい評価に表れている。 ・ICT機器を取り入れることで、視覚的な面からも理解しやすくなり、更に意見交換を行えるので、考え方の幅を広げられる。授業内容の定着にも役立っていると思う。忙しい中でICT研究に励み、授業を組み立てている先生方のおかげだと思う。 ・十中の生徒は生活面で安定していると思う。生徒と先生の意見交換ができている結果、生徒が学習に興味をもたれている。 ・全ての項目で基準を上回っているとのことで大変感心している。内容がとてよく、落ち着いた生徒が多いことが数字に表れている。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学力を定着させます。	キャリア教育を通して、生徒が主体的に社会に参画するために必要な力を身に付け、授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	3	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン2に関する質問項目5～9における肯定的な評価の割合は、保護者79.3%(-4.4)、生徒86.8%(-1.7)、と当該要素について求められる水準をやや下回っている。教員の肯定的な評価の割合は93.8%(+0.7)となり、総合的な学習の時間の取組など、ICTを有効に活用したことによる主体的な学びや、授業の工夫と推進が成果として認められる。おおた教育ビジョンが示す「成果指標」「中学校第2学年数学の期待正答率を超えた生徒の割合(達成率)」は79.1%であり、大田区(69.9%)、全国(69.4%)の達成率を上回る結果を示している。令和4年度においても大田区及び全国を上回る結果が見受けられる。今後も、生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図り、学力の向上に向けた取組を行っていく。	A5 B2 C0 D0	・学校評価は適切である。保護者目標、生徒目標では差違が生じるものである。生徒の学びの意欲を更に伸ばしていってほしい。 ・上記と同様に、ICT機器利用の効果が得られている。 ・生徒の学ぶ意欲を引き出せる指導を期待している。 ・学力の個人差はある。支援が必要な子供が多ければ、先生方の力だけでは限界があるので、必要に応じて支援員などを活用しながら、学力の定着を図ってもらえればと思う。 ・授業がわかりやすい教員の努力の結果である。授業規律が守られていて、先生方の努力次第で生徒は変わって来ている。十中に関しては、とても上手くコミュニケーションも取れ、よいバランスで進んでいると推測される。 ・達成に至らなかった生徒への指導や励ましよろしく願いします。
		学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3					
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	2					
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	分りやすい授業を行うために、学習指導を工夫改善している。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン3に関する質問項目10～13における肯定的な評価の割合は、保護者87.8%(+0.3)、生徒92.0%(+1.4)と、保護者と生徒の評価に差が生じた。教員の肯定的な評価の割合は昨年度の97.0%から上昇し、100.0%に到達している。生徒と教員の肯定的な割合が上昇したのは、小中一貫教育の日の研修を通して、道徳等でICTを有効活用した授業方法について、各教員が研修・研鑽して授業を展開したことにも要因があると考えられる。保護者に関しては、「学校における清掃活動」の質問項目への肯定的評価の割合が、昨年度と同様に70.0%前後である。これはコロナ感染症予防下における清掃活動の在り方にも起因していると思われる。一方、生徒の自己肯定感については、昨年度の78.5%から87.9%へと9.4%上昇している。コロナ禍における学校や家庭等での教育的活動の範囲が狭小かつ広がり、生徒の体験的活動が増加したことが要因として考えられる。今後も「学校生活調査」とWebOUJの結果を基に、生徒の個に応じた指導と支援を行い、生徒の自己肯定感や自己有用感の更なる向上に努めたい。	A6 B1 C0 D0	・学校評価は適切である。生徒一人一人に個性があることを第一義として、指導の程をお願いします。 ・学校だけでなく、家庭や地域と協力すべきだと思う。 ・小学生の心の問題は、中学生になって解決できず、もっと悪化する事もある。心の問題は早く対処してほしい。家族の協力が重要である。 ・コロナの影響で、人と関わる機会が少なかったため、自己有用感が育ちにいい環境になっていないと思う。今後は少しずつ「人の役に立つ」経験が増えなければいけません。 ・コロナ禍、生徒は学校の決まりを守り、学校生活を送っている。保護者と生徒の評価に差違が出たことは気になる。 ・保護者とのギャップが生じてしまうことは、コロナ社会において情報取得の少ないことで、仕方がないのだと思う。先生と生徒の数値が近づいているということは、価値観の共有ができているということで、素晴らしいと思う。 ・元の生活に戻りつつあるが、全てが戻るかどうかかわらない。新しい考えをもって、過去にとらわれずに新しい未来を築いて行っていきたい。
		小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	3	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン4に関する質問項目14～16における肯定的な評価の割合は、保護者80.1%(-0.5)とほぼ同じ。また、教員は昨年度の96.0%から98.6%へと増加している。一方、生徒は78.7%(-9.5)であるが、「普段から身体を動かすこと」やその楽しさに関する質問項目への肯定的な評価の割合は昨年度と比べて大きな変化はない。しかし、「決まりを守り、規則正しい生活を心がける」ことに関する項目は、78.9%(-4.5)と数値がやや減少している。授業、行事、部活動など学校生活のあらゆる場面で、決まりの遵守については、生徒の規範意識を高められるよう指導する。また、自覚から規則正しい生活ができるように、保護者会や教育相談等の機会などを通して、家庭への協力も促している。	A5 B2 C0 D0	・学校評価は適切である。規則正しい生活を生徒に促すのも、家庭の中の生活の安定が必要と感じる。家庭との相互協力の下に生徒への指導をよろしくお願いします。 ・コロナの影響が生徒にあると思う。 ・精神的に不安を感じる年齢にコロナが加わり、ストレスを運動で解消できない中でのアンケート結果としてはよい方だと思う。 ・運動会を拝見し、コロナ禍においても、生き生きとした子供たちの姿を見るのができ、嬉しく思った。適度な運動は生涯を通じて健康の維持に必要だということを繰り返し伝え、運動が苦手な子供でも、体を動かすことの楽しさを実感できるよう取組をお願いしたいと思う。 ・体力の向上には、学校、家庭との共通課題と努力が伺える。 ・体を動かすことに限らず、密にならない、大声で話さない、食事は熟食になり、行動制限があり、自然に体を動かすことが少なく、それが習慣化してしまうことが心配である。 ・その3年間にはなかなか思うとおりにできなかったと思う。今後は少しずつ体力向上に向け、活動してほしいと思う。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
		保健体育科の授業、体育的行事、部活動等を通して健康増進の意識を高め、心と体のバランスの保持増進をめざす。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な学習環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン5に関する質問項目17～22における肯定的な評価の割合は、保護者92.5(-3.9)%、生徒95.8%(+1.0)と当該要素について、求められる水準を上回っている。教員の肯定的な評価の割合も98.9%(+0.4)と上回っている。引き続き、これまでのコロナ感染症予防への対応の成果が要因と考えられ、質問項目の「学校生活を楽しんでいる」(93.9%)「大森第十中学校に入学してよかったと思う」(95.9%)「先生は、わかりやすかったと思う」(95.9%)「先生は、わかりやすかったと思う」(95.9%)と生徒が回答していること、また、「研究や研修に参加し、自身の授業改善に生かした」という質問項目への教員の肯定的な評価の割合が100%であることから、生徒が一人1台タブレット端末を効果的に活用したり、教員が自身の授業力向上のために日々研鑽・工夫していることの結果が表れていると考える。今後も、生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上や、良質な教育環境の整備を積極的に進めていなければならない。	A6 B1 C0 D0	・学校評価は概ね適切である。保護者92.5(△3.9)%と生徒95.8(△1.0)%をどう捉えるかで、改善すべき点の意見が変わってくると思う。「十中に入塾してよかったと思う」項目は、より高くてもよいが、引き続き親身な指導をお願いします。 ・ICTを含め、タブレット端末の活用をお願いします。 ・学校生活が楽しく、「十中に入塾してよかった」という言葉は最高だ。 ・目まぐるしく変わる社会の流れの中で、先生方は多忙の中、研修などにより指導力の向上を図っていただき、本当にありがたい。 ・「十中に入塾してよかったと思う」生徒が95.9%とのこと、素晴らしいと思う。一方で、コロナが落ち着いたとき、家庭でリモート授業を受ける時に慣れずにいた生徒の「居場所」をどうしていか検討していただければありがたい。 ・コロナ禍で先生方の努力と指導力の向上が伺える。学校も落ち着いたのは、生活指導に努力している結果である。 ・今の十中を見ていると、静かに学校生活を送っているように見える。あいさつも以前より生徒が多くなっているように思う。 ・学校生活を満足している率が上がっているのだと思う。 ・「十中生活よかったと思う」生徒が多くなった。母校に誇りをもててくことは素晴らしい！先生方の御指導のおかげだと思う。生徒の落ち着いた様子にも表れていると思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しLOUTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2					
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					
			4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を促し、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的な情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン6に関する質問項目23～27における肯定的な評価の割合は、保護者76.7%(+0.7)、生徒81.8%(+0.1)と当該要素について、求められる水準を概ね満たしている。教員の肯定的な評価の割合は78.1%(+2.1)となっている。アンケート項目の「ボランティア活動」については、保護者、生徒、教員ともに低い数値を示すが、昨年度と同様にコロナが終息に向かうまでは、マイナス要因として捉えないこととし、特に今年度は、夏休み期間中に地域のボランティア活動に応募し、参加者が多かった。残念ながら実施指標としての開催だったが、生徒の積極的な姿勢が見受けられたことを肯定的にとらえ、今後withコロナの視点で、地域との連携及びボランティア参加の在り方について、できる限りの対策を検討していきたい。	目標に対する成果指標 4:85%以上 3:60%以上 2:40%以上 1:40%未満	4	保護者および生徒対象に実施した学校教育活動点検アンケートにおいて、プラン6に関する質問項目23～27における肯定的な評価の割合は、保護者76.7%(+0.7)、生徒81.8%(+0.1)と当該要素について、求められる水準を概ね満たしている。教員の肯定的な評価の割合は78.1%(+2.1)となっている。アンケート項目の「ボランティア活動」については、保護者、生徒、教員ともに低い数値を示すが、昨年度と同様にコロナが終息に向かうまでは、マイナス要因として捉えないこととし、特に今年度は、夏休み期間中に地域のボランティア活動に応募し、参加者が多かった。残念ながら実施指標としての開催だったが、生徒の積極的な姿勢が見受けられたことを肯定的にとらえ、今後withコロナの視点で、地域との連携及びボランティア参加の在り方について、できる限りの対策を検討していきたい。	A5 B2 C0 D0	・学校評価は適切である。地域活動もようや動き始めた感があるが、コロナ禍前後に関わらず、どこまで関心を抱いているかがポイントだと思う。評定の一部にボランティア活動を入れるなどとはなかなかできないが、地域とより連携し、促せると思う(大学生のインターシップと地域活動が、少し似ていると感じる)。 ・小学校(夏休み)と地域(大運動会や防災活動)の活動に協力願います。 ・地域としてボランティア活動ができる提案をしていきたい。 ・地域での防災活動やボランティア参加など、子供の自己有用感を高めるばかりではなく、地域にとっても、中学生は実際に大きな力となるのでとてもありがたい。学校と地域が連携できる形が少しずつも戻っていけばいいと思う。協力できることなどどんどん協力していきたいと思う。 ・コロナ禍での地域行事への参加が制限される中、様々なふれあいができなかったのではないかと。 ・地域との交流をもちたててもない現状でも、あいさつ一つとっても大変気持ちのよいもので、満足している。 ・ボランティア活動もこれからは発活できるようになると思う。期待している。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					
		生徒の人間形成のために、学校・家庭・地域が協働して、生徒が主体的にボランティア活動を行う環境を整える。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2					
		生徒が主体的に活動する場面を通して、地域・家族・友人等の関わりの中で挨拶活動を行える生徒の育成を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。